

四明会たより

京都大学農学部四明會 2022年8月発行

ごあいさつ

四明會会長 澤山 茂樹
(農学研究科長・農学部長)

会員各位には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は本会の活動にご支援・ご協力を賜りまして、誠に有り難うございます。四明會は令和4年度、学部311名、大学院修士課程318名、博士課程68名の新会員を迎え、会員数は26,176名となりました。

昨年度も令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、観桜会、観月会、ソフトボール大会、農学部卒業50周年記念同期生会、新年会、在学生の就職活動支援のセミナー・懇談会は中止または延期とさせていただきました。会員交流の機会を十分に提供できなかったことは、斬鬼の念に堪えません。今年度も観桜会は中止とさせていただきましたが、入学生保護者懇談会は、ホームページからビデオを閲覧できるオンデマンド形式で行いました。6月に入って、ワクチン3回目接種がかなり進んできましたので、四明會の会員交流事業が再開できる日が、徐々に近づいてきているのではないかと感じております。

ここで、今年度早々の会員の栄誉をご紹介します。現京都大学理事・副学長の村上 章名誉教授(元地域環境科学専攻)が、日本学士院賞を受賞されました。衷心よりお祝い申し上げます。

今年も新型コロナウイルス感染症への対策を十分に進め、卒業式・修了式・入学式を対面で執り行うことができました。講義についても感染対策を十分に取しながら、昨年10月から対面授業を中心に実施しております。

さて、当学部は1923(大正12)年に設立され、いよいよ来年2023(令和5)年11月に創立100周年を迎えます。「農学部100周年記念式典」を、2023(令和5)年11月11日(土)に予定しています。来年に備え、「農学部100周年記念事業基金」を設立し、さまざまな事業の実施を計画しています。これらの事業は、農学部の卒業生や縁の深い方々とともに100年の歴史と今後の展望について語り合う機会とするとともに、日本の農学の将来を担う若手研究者たちの国際的飛躍の契機とすることを狙いとしています。こうした事業の実施に加え、本基金は持続的将来の鍵となる農学の発展を担い、環境や食料問題に取り組む研究者を育成するために役立てられるほか、農学部における教育と研究環境等の整備にも活用する予定です。次世代の学生・若手研究者たちが、人類の持続的将来の鍵を握る農学の発展をリードする研究者として、あるいは、環境と食料供給の持続性に農学の専門的知識をもって取り組む人材として活躍できるよう支援してまいります。なお、具体的な基金の使途

は下表のように計画されております。

項 目	内 容
農学部百年史編纂	百年史の編纂にあたっての取材・制作費
百周年記念事業の実施	記念事業にかかる必要経費
国際研究集会の支援	大学院生・若手研究者を対象とした国際研究集会の開催
教育・研究設備等の充実	農学部・農学研究科における教育・研究設備等の整備
若手研究者の支援	若手研究者の海外派遣費用等の研究経費

一方、長年ご支援をいただいている農学部教育研究基金に関しましては、令和4年度から農学研究科独自の若手・女性研究者育成・支援を目的として、農学部教育研究基金等を主要な財源に充て、リサーチアシスタント(RA)経費等、主に博士後期学生への支援事業を開始しました。本事業は、当研究科におきましても喫緊の課題となっている、博士後期課程学生の低い充足率への対応と位置付けております。従来の大学院学生を対象とした、国際研究集会発表支援事業も継続させて頂いております。さらに、農学部教育研究基金は、男女共同参画社会実現を目的に、教員が出産・育児に携わる期間、教育・研究活動に支障をきたすことなく双方を両立させる職場環境の支援制度にも活用されております。

農学部教育研究基金につきましては、名誉教授の先生方を始め、多くの会員からご寄付を頂戴しておりますことに篤く御礼申し上げます。お願いばかりで誠に恐れ入りますが、農学部100周年記念事業基金につきましても、今後のご支援を宜しくお願い申し上げます。



ホームページについて

ホームページではいろいろな活動の告知や報告も掲載しています。随時更新していますので是非ご覧ください。

URL : <http://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/> (「四明会」で検索)

同窓会たより

◎農学科(KND)

KNDならびにゆりの木会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本年度もゆりの木会は新型コロナウイルス感染拡大の情勢を鑑み、恒例の新入生歓迎会および予餞会についてはオンラインでの開催となりました。また、誠に残念ながら木津農場での田植え会およびソフトボール大会も中止となりましたが、代替としてオンライン懇親会を開催いたしました。

昨年の四明会たよりでのご報告以来、多くの人事異動がありました。2021年9月には品質評価学分野の松宮健太郎助教が食品生物科学専攻准教授に、2021年10月には大野健太郎特定助教が香川大学に、2022年4月には植物生産管理学分野の山崎彬助教が近畿大学へそれぞれ転出されました。また、2021年9月に作物学分野のLin Taiyu特定助教が任期満了となりました。さらに、2021年10月から2022年3月まで果樹園芸学分野にLi Taishan特定助教が、2021年10月から12月まで作物学分野に近藤琳太郎特定助教が、2022年1月から2022年3月まで植物生産管理学分野に小梶裕之特定助教が着任され、それぞれ任期満了となりました。そして、2021年7月には品質設計開発学分野に石橋美咲特定助教が着任され、2022年4月からは品質評価学分野助教に異動されました。また、2021年8月には植物生産管理学分野に長坂京香助教が、2021年10月には栽培システム学分野に岩橋優助教が、2022年4月には品質設計開発学分野に松岡祐樹特定助教が、2022年5月には育種学分野に角井宏行特任助教がそれぞれ着任されました。さらに、2022年4月に栽培システム学分野の井上博茂講師が准教授に昇任されました。

末筆ながら、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(大野 翔)

◎林学科(クローネ会)

クローネ会の皆さまにおかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年度は新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、感染対策を十分に行ったうえで対面形式での講義や学生実習を行うことができました。本年度に入り感染拡大が落ち着きつつあることから、合宿形式での実習も従来の形で再開していくための努力が進められています。

本年度より専攻の再編が行われ、旧林学科のうち森林生態学分野と森林水文学分野が、地域環境科学専攻から森林科学専攻へと移動しました。旧林学科の教員の異動につきまして、森林・人間関係学分野の神崎護教授がご退職され、松下幸司先生が教授に昇進されました。森林利用学分野の岡田直紀准教授がご退職され、檀浦正子先生が准教授に昇進されました。森林情報学分野の中島皇講師がご退職され、小林和也先生が准教授に昇進されました。また同分野に松岡俊将助教と杉山賢子助教が着任されました。山地保全学分野に正岡直也助教(私)が着任いたしました。

令和3年度の京都大学森林科学公開講座は11月13日に「樹木と森の季節性」をテーマに、zoomを使つてのオンライン配信で行われました。熱帯林環境学分野・小野田雄介先生、森林利用学分野・岡田直紀先生、森林情報学分野・館野

隆之輔先生の3人から、四季豊かな日本の樹木の季節性に関する興味深い話題をご提供いただきました。

末筆ながら、今後の皆さまの益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(正岡直也)

◎農芸化学科・応用生命科学科(専攻)(六成会)

六成会は旧農林化学科・農芸化学科の流れをくむ同窓会で、現在では農学研究科応用生命科学専攻の11研究室(細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、エネルギー変換細胞学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御科学、応用構造生物学)と生命科学研究科の2研究室(分子細胞育種学、植物分子生物学)、応用生命科学専攻協力講座の7研究室(分子生体触媒化学、分子微生物科学、森林園遺伝子統御学、森林代謝機能化学、木質バイオマス変換化学、農学研究科寄付講座「産業微生物学」、学際融合教育研究センター「生理科学研究ユニット」)の学生と教職員で構成されています。

この1年、コロナ禍の波が何回かあった中で、教育と研究についてはほぼ通常どおりの活動ができるようになっていきます。令和4年の4月には、学部1回生49名が入学しました。この中には日本語を学びながら学士をめざす留学生プログラムKyoto iUPに参加した香港からの留学生が1名含まれています。大学院には応用生命科学専攻修士に57名(留学生2名)、同博士 後期課程に10名(留学生1名)進学しました。また生命科学研究科の2研究室には修士5名、博士1名が進学しました。今年は、2年間対面を見送った歓迎会を飲食抜きではあるものの入学式当日に農学部大講義室で開催、新入生自己紹介の後、参加者とともに出身地域ごとのグループをつくって交歓する機会を持ちました。

教員の異動も少なからずあり、まず新規採用としては、分子細胞育種学 山上あゆみ助教(令和3年7月)、細胞生化学 黒田美都助教(同9月)、生体高分子化学 菅瀬謙治教授(令和4年4月、京大工学研究科から)、分子細胞育種学 宮川拓也准教授(同、東京大学から)が着任されました。また植物分子生物学 吉竹良洋(令和3年6月)、生物機能制御 梶谷貴洋(同11月)の両氏が特定助教から助教に昇任、植物分子生物学 安居佑季子助教が准教授(同10月)に昇任されました。一方で、分子生体触媒化学 渡辺文太助教(東京慈恵会医大准教授)、産官学連携本部(発酵兼担) 渡邊寛子および菊地亮太特定助教が令和3年度末に転出されました。新天地でのますますのご活躍をお祈りします。なお渡邊、菊地特定助教の後任には赤坂直紀および谷村あゆみの両博士が着任されています。

行事としては感染拡大が落ち着いてきたのを見て、3年ぶりのソフトボール大会を開催しようとスポーツ委員の面々ががんばってくれました。学内の制限により一般学生と教職員はまだ農学部グラウンドが使えないので御所のグラウンドを使用することとし、6月5日の日曜に11チームが集まりました。すべてのチームが練習不足の中、さすがの制御発酵が優勝。意外にも(失礼!)細胞生化学が準優勝という結果でした(写真)。



もう一つの主要行事である予餞会も、この2年、制限下でオンライン飲み会の形で「もがきながら」続けてきましたが、この比較的落ち着いた状況が続けば、いよいよ次回(2月)は対面式で再開できるのではと期待しています。本当に早く収まってほしいですね。会員の皆様には、くれぐれもご自愛の上、今後とも六成会へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、長い年月にわたり農芸化学の教育研究に大きな貢献を果たしてこられた、山田秀明、山田康之両名誉教授がそれぞれ昨年8月と9月に相次いで逝去されました。生前のご功績を偲び、ご冥福をお祈り申し上げます。

(宮川 恒)

◎農林生物学科(南窓会)

南窓会の皆様におかれましては、お元気でお過ごしのことと存じます。対面での講義が再開し、徐々にですが、通常の研究教育環境に戻りつつあります。

旧農林生物学科に関わる研究室の今年度の人事異動をご報告申し上げます。昨年度から、微生物環境制御学分野准教授に吉見啓先生(前(財)発酵研究所寄付講座糸状菌・環境インターフェース工学講座特定准教授)、栽培植物起原学分野特定助教に加藤大明先生(前京都大学博士研究員)、同特定助教に安達広明先生(前奈良先端科学技術大学院大学助教)、昆虫生理学分野に所属し京都大学白眉センター特定准教授に安藤俊哉先生(前基礎生物学研究所助教)、植物遺伝学分野助教に井上喜博先生(前英国The Sainsbury Laboratory研究員)が新たに着任されました。また、生態情報開発学分野准教授の刑部正博先生が3月末をもって定年退職されました。

卒業生・修了生の学位取得者を紹介いたします。Jinlian Chen氏(植物病理学)、辻健也氏(微生物環境制御学)、杉本直也氏(生態情報開発学)が昨年度中に博士号を取得されました。

残念なお知らせもございます。昨年9月に河原太八先生が逝去されました。河原太八先生は、向日市物集女町の栽培植物起原学分野准教授としてコムギ研究の発展およびコムギ遺伝

資源の維持管理にご尽力くださいました。

昨年度、報告しましたように旧農林生物学科の研究室が所属する資源生物科学科では、来年2023年度よりコース制度が始まります。旧農林生物学科は、生物先端科学コースになります。生物先端科学コースを知ってもらうために、学部1年生を対象に「学生と教員の親睦会」を、昨年8月5日と9月30日の2回にわたって開催しました。各分野より博士課程の学生、博士研究員、教員が話題提供者となり、京都大学農学部だからこそできる最先端の基礎研究について紹介しました。また、研究材料や実験装置の展示説明もおこなわれました。1年生から多くの質問があり、会は盛況のうちに終了することができました。今年度は、「生物先端科学」という科目が新たに開講しました。「大発見シリーズ」「最先端シリーズ」と題して、異なる分野教員2名が対談形式で講義をするという独自の試みをしています。講義の一部は、動画サイト(YouTube)からご視聴いただけます。

南窓会の皆様には、引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。

(吉田健太郎)

◎地域環境工学科(洛水会)(旧農業工学科、旧農林工学科)

梅雨明けのみぎり、洛水会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年3月に本学副学長・理事・洛水会名誉会員の村上章先生が日本学士院賞を受賞されるという慶事がありました。当学科では、1987年の故沢田敏男先生、1994年の故角屋陸先生、2007年の丸山利輔先生に続く榮譽になります。なお、村上先生はこれに先立ち、2022年度の日本農学賞・読売農学賞も受賞されています。長年のご功績に対する、栄えあるご受賞、心よりお祝い申し上げます。

また、人事面では、4月に藤澤和謙准教授が施設機能工学分野の教授に昇任しました。また、それに先立ち、今年1月に同分野の特定助教として、コッホ・マイケル・コンラッド氏が着任しました。一層のご活躍が期待されます。

洛水会では、四明会名簿が発刊されない年度に学科の名簿を刊行することになっておりましたが、コロナの思わぬ余波を受け四明会から名簿刊行が1年延期されたため、5月の総会で議論の末、特別に2年連続で名簿を刊行することになりました。今後は定期的に刊行されることを祈るばかりでございます。

ここ2年ほどはコロナ・ウイルスの拡大により、洛水会行事が思うように実施できませんでした。しかしながら、この4月からは原則対面授業となり、ようやく明るい展望がみえてきました。そこで、洛水会の行事も徐々に従来のスタイルに戻していきたいと思います。ただし、コロナの期間に大きく変化したこともありますので、新しい日常(ニューノーマル)、新しい働き方、新しい関係構築が生まれつつあります。同窓会の形もそれに応じて変化が必要があるのかもしれませんが。望ましい変化に対して前向きに取り組んで参りたいと存じます。

最後になりましたが、日頃から洛水会活動をご支援いただいた会員の皆様に厚く御礼を申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

(星野 敏)

◎農林経済学科(洛友会)

食料・環境経済学科の近況について

本学科・専攻における昨年からの人事異動をご紹介します。

昨年12月に、特定講師(外国人数員／農学原論分野)のハート・ナダフ・フォイアー先生が准教授に昇任されました。引き続き、院生・学生の国際化に関わる教育指導にあたられます。地域環境経済学分野の梅津千恵子教授が昨年度末をもって定年退職されました。梅津先生は、2016年度から長崎大学より同分野教授として赴任され、以後8年間にわたり本専攻の研究と教育に尽力されました。多くの留学生を受入れ学位論文に結実する適確な指導をされるなど、とりわけ本専攻の国際化に多大な貢献をされました。

食料・環境経済学科については、例年通り34名の新生を迎えました。女子比率は四割弱の水準で、近年のジェンダーバランスは五割前後を推移しています。また、本学科を第一希望とする学生が8割強ほどを占めていることが近年の特徴です。最近の食・農・環境に関する社会的関心の高まりを反映しているものと受け止めております。なお、特色入試による新生は2名です。

修士課程の新生は21名、うち留学生が4名です。博士後期課程については9名、このうち編入3名、留学生4名と、例年になく多くなりました。

(専攻長:足立芳宏)

洛友会の活動について

一昨年は新型コロナ禍のため総会や記念講演を中止いたしました。昨年は11月6日(土)の京都大学ホームカミングデイに合わせ、益川ホールにてオンライン併用で実施しました。記念講演は、前大阪経済大学学長の徳永光俊先生(昭和50年卒)が「生きもの循環論から見る日本列島・ユーラシア農法史、農業経営史へ—私の農法史の歩み—」とする演題でお話しされ、出席会員一同、熱心に聞き入りました。

昨年から取り組み始めた会費のオンライン決済やSNSによる活動の情報発信も、新任の事務局長や関係有志会員のご尽力により、定着しつつあります。

事務局を置く(公財)ルイ・パストゥール医学研究センターにて概ね月1回でオンライン併用で事務局会議を開催しています。最近では、若い卒業生の方々の参加を賜っております。本誌をお読みの会員様も、お時間がお許しになれば参加願えれば幸甚です。この会議の日程につきましては、SNSでお知らせしていく考えです。

来期以降は、広報活動だけでなく、卒業会員と現役会員との意見交換、交流の場を積極的に創っていきたくて考えております。

洛友会の活動を支える財務基盤は、皆様からの年会費が基本です。会員約1300人の内、今期の年会費を納入くださっている会員は約300人です。今後の活動計画を考慮いたしますと、納入率を倍増させたいところです。何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



洛友会 独自Webサイト(ホームページ)
<https://rakuyu.kyoto-univ.jp/>



オンライン会費納入ページ
<https://rakuyukai.stores.jp/>

(鏡島正信)

◎水産学科(緑洋会)

緑洋会の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと

お慶び申し上げます。令和3年度では応用生物科学専攻の海洋系(旧水産学科)における教員の異動はございませんでした。

コロナ禍も3年目に入りました。昨年度にはワクチン接種が進み、活動制限が大きく緩和され日常生活が戻りつつあることを大変喜ばしく思っています。京大でも、昨年度から感染対策を取ったうえで、ほぼ通常とおり研究室での研究活動を行うことが可能でした。ただ、この感染対策は厄介で、学生にとって最も大事なコミュニケーションの機会を大きく奪ってきたと思います。残念ながら、資源生物科学海洋系グループの課題研究発表会と応用生物科学専攻海洋系グループの修士論文発表会をはじめ、大人数が履修する講義や研究者が集う学会大会ではオンラインとなりました。幸い、今年度に入り講義はすべて対面で行われ、学内も活気づいてまいりました。このまま日常が戻ってくることを願ってやみません。

最後になりますが、緑洋会会員の皆様がたのご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(吉田天士)

◎林産工学科(ユナリグナ)

ユナリグナの会員および会友の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年度夏以降の旧林産工学科関係の人事ですが、教員の定年退職や異動はなく、引き続き研究・教育に当たっております。一昨年来続く新型コロナウィルス感染症の影響を受け、昨年度は後期授業開始直後までオンライン授業でしたが、その後は対面授業が再開され現在に至っております。実験・実習については十分な感染防止対策を施し、何とか対面での実施を継続しております。まだまだ予断は許されない状況ですが、このままコロナ禍が収束へ向かえばと祈るばかりです。

さて、同窓会活動に関しましては、学科再編などの影響を受け、「ユナリグナだより」の発行も止まった状態で、「ユナリグナ」としての活動は停滞気味ですが、一方で、「東京ユナリグナ」、「関西ユナリグナ」がそれぞれ2年に1度交互に開催されることとなり、同窓生の交流の場が定着してきました。ただし、こちらもコロナ禍の影響で、「関西ユナリグナ総会」の開催が中止されたままの状況であり、活動再開を祈るばかりです。

また、私自身が管理者となっております「ユナリグナ」のホームページ(URL: <http://h3news1.kais.kyoto-u.ac.jp/users/yanase/HP/index.html>)につきましても、「東京ユナリグナ」と「関西ユナリグナ」の開催情報などをできる限り更新していきたいと考えておりますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、会員および会友の皆様からの一層のご支援とご協力をお願いするとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(築瀬佳之)

◎食品工学科・食品生物科学科(専攻)(中陽会)

中陽会の皆様におかれましては、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。本学科・専攻の最近の動きと人事異動をご紹介します。

本年は3月24日に学科の卒業生と専攻の修了生を送り出すための中陽会の歓送会が楽友会館にて予定されておりましたが、新型コロナウィルス感染症のまん延防止等重点措置がその直前まで府下全体に発出されていたことから、昨年に引き続き開催を自粛いたしました。卒業式と修了式は予定通りに行われ、

食品生物科学科の4回生40名が卒業し、同専攻の修士課程2回生32名が修了いたしました。4月7日に予定されていた中陽会の総会および新入生歓迎会は、例年の楽友会館における開催ではなく、農学部総合館の講義室W522にて、新入生ガイダンス後に飲食を伴わない対面形式で実施いたしました。総会では会長より入学への祝意が表されるとともに、中陽会の歴史と伝統に関する説明が行われた後、食品生物科学1回生34名および同専攻修士課程7名、同博士後期課程1名を新たな会員として迎えました。新入生歓迎会では新入生が各自のプロフィールをもとに自己紹介を行い、教職員や他の新入生との親睦を深めました。

教職員の異動はこの1年間で複数ありました。令和3年12月1日付で生物機能変換学分野の渡邊大輔准教授が奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科准教授に、令和4年4月1日付で食品生理機能学分野の金子賢太郎特定助教が明治大学農学部専任講師に、それぞれ転任されました。また、令和3年9月1日付で本研究科農学専攻松宮健太郎助教が農産製造学分野准教授に着任いたしました。さらに、令和4年2月16日付で筑波大学生命環境系老木紗予子特別研究員が生物機能変換学分野助教に就任されました。

新年度からは、まん延防止等重点措置の解除に伴い、大学におけるコロナ感染症による活動制限も緩和された状態が続いています。講義も実習も原則として対面で行われていることから、農学部総合館も授業を受けにくる学生で賑わっており、コロナ禍以前の状態に戻りつつあることを実感することもございます。その一方で、大学内からもコロナ感染症罹患者が一定数発表されておりますように、感染対策において気が抜けない毎日が続いています。このような状況下、学生が安心して勉学に取り組めるよう、教職員一同日々努力をしております。

会員の皆様におかれましては、中陽会の発展のため、今後とも格別のご支援を賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。末筆となりましたが、皆様の益々のご活躍を祈念いたします。

(松宮健太郎)

◎畜産学科(はくび会)

はくび会、かすみ会、カトレア会の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。令和4年3月末に動物栄養科学分野・松井 徹 教授が定年退職されました。また、令和4年4月に生殖生物学分野に本多慎之介さんが助教として、令和4年6月に畜産資源学分野に塚原洋子さんが特定講師として赴任されました。応用動物系5分野(動物遺伝育種学分野、生殖生物学分野、動物栄養科学分野、生体機構学分野および畜産資源学分野)一同、元気に研究・教育に励んでいます。以下は、本年度はくび会副会長の坂田将弘さん(生殖生物学分野:修士2回生)からの活動報告です。

ここ数年間は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事が相次いで中止となっておりました。昨年度はその流れが止まることを願っておりましたが、新型コロナウイルスの勢いは留まることなく、例年3月に行われていたはくび会総会が中止となり、応用動物系の卒業生・修了性のための送別会も見送る運びとなりました。しかしながら新型コロナウイルスの勢いは着実に弱まっており、各研究室において送別会をする等、徐々に今まで通りに行事が行える状況が整ってきていると感じております。また、はくび会として例年活動しております畑での栽培についてですが、今年度は有志のメンバーが集まっておりません。集まり次第感染対策を徹底した上で、例年通り栽培を行いたい所存

です。現在徐々にではありますが、日常生活が元通りの姿に移行していると実感しております。今後、現在の状況がより一層良いものとなり、応用動物系全体で親睦を深め、はくび会としての関係性がより強固なものとなることを心より願っております。

応用動物系5分野は農学部総合館北東部の2階から4階にかけて居を構えています。お近くにお越しの節は、お気軽にお立ち寄り下さると幸いです。

(舟場正幸)

◎熱帯農学専攻 (熱田会)

熱田会のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

いよいよコロナも収束が見えてきたような気がします。ウイルスについては、過去の例からみても、進化論的にみても、いずれは弱毒化するだろうとの見方はありましたし、やがてワクチンも完成するだろうと思われました。それらが実現するのは、しかし、もっとずっと先のことだろうと個人的には思っていたのですが、思ったよりははるかに早く達成されました。急速な弱毒化は、世界が過去とは比べものにならないくらい緊密につながっていることの証しだろうと思いますし、ワクチンの急速な普及は各方面のご努力の成果であって、これには頭が下がります。この2年間、旧熱帯農学専攻の各研究室に限らず、ほとんど海外での研究を行うことはできませんでした。しかし、さすがにそれももうそろそろ解禁となりそうです。とはいえ、すべてがコロナ前の状況に戻ることはないとも思えます。社会ではリモートワークやテレワークが浸透し、人口密集地に拠点を構える必要も、そこに通う満員電車に乗る必要もなくなってきました。NTTが出社は出張扱いにすることにしたりと昨日(執筆時点6月)の新聞で報じられました。この手の変化は元に戻らないでしょう。大学も、こうした変化とは無縁ではありません。会議はwebが多くなって、これは案外便利なので今後も続くでしょう。さすがに授業は対面に戻っていますが、国際学会や研究会などは、開催費用が安いという遠方からも参加しやすい等web開催のメリットも大きく、加えてみなさんそういうスキルが上達しましたから、これからはなくなることはなさそうです。海外での調査研究はどうでしょうか。さすがにオンサイト以外の現地研究は成立しまいと思ったら、驚いたことにSNS等を使った現地調査や、簡単なインタビューなら現地代行業者まで出現しました。思えばだれもがビデオカメラと録音機能のついた電話機を持ち歩き、世界中にその記録を配信できる時代です。ITやリモート技術を使った農業(これは熱帯アジアでも急進しています)を研究対象とするリモート研究者まで現れました。これでは現地を歩き回る調査手法では手に負えないという気になります。このさき、京大が世界を先導してきたフィールドワークのやり方は太刀打ちできなくなるのかと思いますが、じつはそれはそれほどでもなくて、同時にリモートの限界も見えてきたのでした。現地調査の端緒は、ふつうの農家が何を考えているかを理解するところだったはずで、通信機器の液晶画面はどうやら現場の肌感覚までは伝えないようで、目の前にいる人に本音を語ることはあっても、スマホ画面に対して世界に本音を語るのは、ちょっとはばかれるようなのです。やっぱり会うに越したことはないようです。人間の相手をするのは最後まで人間でありたいですね。

会員のみなさまのますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(樋口浩和)

京都大学農学部卒業50周年記念同期生会

京都大学農学部は大正12(1923)年、勅令第489号をもって京都帝国大学に7つ目の学部として設置され、翌年4月入学生を受け入れ、昭和2(1927)年3月には第1期生61名の卒業証書授与式が執り行われました。

昭和52(1977)年5月19、20日の両日、農学部第1期生卒業50周年記念同窓会が開かれ、当時ご健在の卒業生30名中16名の方々が参会、懐旧談に花が咲き夜遅くまで懇談されたと昭和52年11月発行の四明會名簿第26号に記載されています。

以来開催の時期は多少異なりますが第2期生の会、第3期生の会と続き、近年は京都大学同窓会のホームカミングデイの前日に開催されています。数年前からは大学院から入学された方にも参加を呼び掛けています。

昨年は昭和46(1971)年3月に学部を卒業された方々の卒業50周年にあたり、昭和48(1973)年修士修了の方々の他、一昨年の開催が延期となっていた昭和45(1970)年学部卒業及び昭和47(1972)年修士修了の方々と合同での記念同期生会開催を11月5日(金)に予定していました。しかし、新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、対面での開催はあきらめオンラインでの開催となりました。オンラインでの開催は初の試みでしたが、四明會ホームページに特設サイトを設け対象者限定で公開しました。内容は会長(農学研究科長)挨拶ビデオ、参加者からのメッセージ(12件)と最近の農学部周辺の写真集です。メッセージの投稿が思っていたほど集まらず残念でした。

今年は例年同様ホームカミングデイの前日令和4年(2022)年11月4日(金)に、昭和47年卒業、49年修了の方々の記念同期生会開催を予定しています。

例年は参加者の中から報告を執筆していただき写真とともに掲載していますが、今年は事務局で執筆しました。

(四明會事務局)

京都大学農学部令和4年度入学生保護者懇談会

四明會では学部入学生の保護者の方々を対象に毎年入学式当日の午後に「京都大学農学部入学生保護者懇談会」を開催しています。しかし新型コロナウイルス感染防止のため一昨年は中止、昨年はWEB上のビデオ配信による開催となりました。今年も4月7日(木)に入学式が挙行されましたが、式への参加は入学生本人のみとなりましたので、こちらに出向くことのできなかった保護者を対象に、昨年に引き続きWEB上のビデオ配信により開催しました。

従来は農学部の新入生が農学部全体のガイダンスを受けている時間帯に保護者の方々に集っていただき、新入生のこれからについての情報等を教員から提供し、その後に本研究科の大学院生も加わって保護者の方々から出される質問に答えるという形式で進められ、会場の益川ホールが満員となる170～180名の参加があり、好評を得ていました。本年度は4月7日から5月6日まで1か月間、四明會ホームページでビデオを公開し、100名以上の方が閲覧されました。

今回の内容は、四明會会長(農学部長)澤山茂樹先生のご挨拶、農学研究科副研究科長田尾龍太郎先生から「農学部カリキュラムの特徴」、農学研究科森林科学専攻高野俊幸先生から「卒業後の就職について」、農学研究科副研究科長北島薫先生から「教員からみた学生生活」という4本のビデオと、四明會についての案内文とアンケートでした。ご覧いただいたことにより保護者の方々の京都大学や農学部に対する理解が深まり、これからの大学生活に対する不安が解消できたのではないかと考えています。アンケートでは、ほとんどの方から懇談会の講演の内容に「満足している」との回答をいただいています。一方、リアルタイムで質問ができる形式や、ハイブリッド型を希望する意見もありました。今後、さらなる内容の改善策を検討し、より充実した懇談会となるようにしてまいります。

最後に、四明會では恒例となっておりますソフトボール大会、各同窓会への支援、農学部・農学研究科OB・OGを招聘しての就職セミナーや業界・企業に関する研究セミナー等の行事を引き続き実施・開催して参ります。今後とも四明會へのご理解とご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(四明會副会長 仲村匡司)

名簿第63号の発行について

四明會名簿は隔年発行となっており、昨年11月に名簿第63号を発行しました。
まだご購入可能ですので、ご希望の方は事務局までご連絡ください。

不要となった名簿の処分について

新刊が発行され、以前の名簿が不要となった方は、四明會事務局までご返送ください。責任をもって処分いたします。
(申し訳ございませんが送料はご負担願います。)

同窓会・クラス会報告

同窓会活動の活性化を目的に、学科、専攻、分野ごとに開催する同窓会・クラス会で、一定の条件を満たす場合に経費の一部を支援する「同窓会・クラス会支援制度」を実施しています。今回は3件の報告が寄せられましたのでご紹介します。みなさまのご報告をお待ちしています

昭和50年畜産学科入学の同窓会(自称「75会」)^{しちご} 2020/7/12-13

今年(2020年)は福岡で7/12～13の日程で“75会”を開催しました。幹事は福岡出身の田代君にお願いし、10名の参加で旧交を温めました。

博多祇園山笠は中止になり、天気予報は梅雨の真っ最中であいにくの雨でしたが、ほとんど濡れることなく楽しむことができました。

7/12は令和ゆかりの坂本八幡宮に参った後、太宰府天満宮で頭が良くなりますように祈願しました。参加した西川君が神職資格者で正しいお参りをしました。

夜は万葉集にも歌われた悠久の歴史を持つ二日市温泉で語りました。

7/13は櫛田神社で飾り山笠を見学し、博多埠頭から渡船で志賀島に渡り、中西食堂でサザエに舌鼓を打ち、志賀海神社から博多湾の景色を楽しみました。

来年は北川先生にお世話になって、福井での再開を約束しました。



参加者:石井一弥、稲村典昭、高倉一美、高橋邦明、田代龍一、西川健太郎、藤中邦則、松山謙二、吉田英策、北川政幸

(畜54 藤中邦則)

※この記事は2021年版の四明会たよりに掲載すべきところ、事務局の手違いにより今号になってしまいました。謹んでお詫びいたします。

農林経済学科昭和35年入学同期会 2022/4/19-20

農林経済学科昭和35年入学の同期生は、卒業後節目の年には一堂に集まり旧交を温めて来ました。2010年以降は2年ごとに行うことが定例化し、2018年彦根開催の同期会には、卒業生31名のうち生存者26名、そのうち24名が集まるという盛会でした。その後コロナ禍により延び延びになっていましたが、幹事の山本芳弘君・杉江勘治君の尽力により、2022年4月19・20日名古屋市の「アイリス愛知」に生存者23名のうち15名が集まり同期会を開催しました。

4月19日午後、観光希望者12名が「アイリス愛知」に集合し、名古屋城観光を行いました。名古屋城の天守閣は耐震工事等のため閉館していましたが、木造にて再建なった本丸御殿に入場してきました。そして夜には3名増え15名にて宿泊ホテルで懇親会を行い、各自の近況報告など行い盛り上がりしました。

4月20日は午前、13名にて名古屋市科学館を訪れ「生命の秘密、人体の不思議」などの展示を見た後、国内屈指のプラネタリウムで天体鑑賞を行い、昼食の後解散しました。

参加者:朝見武夫、内田雅晃、上嶋祥之、北川隆次、小林 宏、後藤舜一、杉江勘治、関谷正人、妹尾勝二、中山 安、原田凱旦、古山裕二、安田 稔、山口 務、山本芳弘

今回は卒業後58年の同期会でした。同期生全員が80歳を超え、全員が集まるのはこれが最後で、今後は関西、関東それぞれで集まり、同期会は小規模ながら継続されることになりそうです。

(経39 安田 稔)



京都大学果樹園芸学研究室同窓会 2022/7/2

四明会会員の皆様方には、ますますご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

令和4年7月2日に京都リーガロイヤルホテルにて、農学専攻果樹園芸学分野の同窓会を開催しました。田尾龍太郎教授の還暦、園芸学会会長就任、国際園芸学会フェロー受賞（国際園芸学会はベルギーに本部を置く、個人会員10000名弱からなる園芸学世界最大規模の学会であり、日本人のフェロー受賞は2人目となります）の祝賀会も兼ねて開催しました。

同窓会当日は気温が40度に達するかという猛暑日でしたが、北は青森、山形、岩手県、南は長崎、大分、宮崎県から、遠方よりはるばるお越しいただき、当日は60名の参加となりました。田尾教授による開会の挨拶ののち岡山大学自然科学研究科 久保康隆教授によるご挨拶ならびに乾杯で同窓会が始まりました。山形大学農学部長 村山秀樹教授、農研機構果樹研究所 花田俊男氏、岡山大学自然科学研究科 河井崇助教、京都大学農学研究科附属木津農場 長坂京香助教より、田尾教授へのお祝いのお言葉を賜りました。同窓会には果樹園芸学研究室所属の博士および修士課程大学院生数名も参加し、同窓生の皆様に紹介する場も設けることができました。最後は、山形大学農学部 平 智教授より閉会の挨拶を賜りました。

令和8年8月には、四年に一度開催される園芸学最大の会議である、第32回国際園芸学会議が京都国際会議場で開催されます。同窓生の皆様には何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後に、四明会会員の皆様のますますのご健勝をお祈りいたします。



京都大学果樹園芸学研究室同窓会 2022年7月2日 於 リーガロイヤルホテル京都

参加者：久保康隆、平 智、尾形凡生、石尾慎史、田尾龍太郎、村山秀樹、高村和法、安田 稔、亀田克己、森口和樹、鉄村琢哉、奥田恭久 他

（農平9 山根久代）

同窓会・クラス会支援制度の報告について

平成30(2018)年より同窓会・クラス会支援制度がスタートし、その報告を令和元(2019)年から掲載しています。昨今はコロナウィルスの影響で同窓会・クラス会の開催が少なかったようですが、収束しそうな気配が見えますので多くの会の開催と報告を期待しています。

同窓会・クラス会支援制度について

同窓会活動の活性化を図るために、学科、専攻、分野ごとに開催する同窓会・クラス会で、一定の条件を満たす場合に経費の一部を支援します。

- 【条 件】 ①10名以上の参加者があり、当該年度の年会費または終身会費の納入者が参加していること
②参加者名簿、開催報告、写真を提出すること（開催報告、写真は四明会たより、ホームページに掲載する）
③学科同窓会が主催するものは対象外

- 【支 援】 1回につき1万円とし、年1回を限度とする。

- 【手続き】 ①四明会事務局に上記の書類を添えて申請する。
②四明会事務局において審査の後、指定口座に振り込む。

個人情報保護について

四明会名簿は会員の親睦を目的として作成しています。名簿の利用者・対象者を限定しており、目的外の使用は固く禁じています。皆様の個人情報及び皆様からいただいた情報の管理、取扱いに際し、関連する法令を厳守し、厳重に管理いたします。

近況報告

毎年8月に「四明会たより」とともに名簿調査はがきをお届けし、住所等に変更がある場合のみ返送していただいています。年齢を重ねると住所等が変わることも少なくなり、十年以上も連絡をいただいていない方がいらっしゃいます。そこで、最近は卒業後70年以上の方は住所等に変更がない場合でも近況をお知らせくださいとお願いしています。昨年は70年以下の方も含めたくさんの方から近況をお知らせいただきましたので、ご紹介します。お名前は伏せさせていただきます。

林22

父は、今年2月15日、96才で天寿をまっとういたしました。最後まで、ライフワークの花時計の本の出版など、やりたい事を成しとげ、幸せな人生だったと思います。母は、認知症で、近くの施設に引き取りました。長い間お世話になり、ありがとうございました。(二女筆)

林29

毎日元気で徒歩50分ほどを歩いております。

化29

何時もお世話になり有難く存じます。

水32

お陰様で現在元気にしています。湘南海岸に住み、南窓から大島、西側から富士山があります。

経33

長生きさせてもらい大勢の家族とにぎやかに暮らしています。パルムの僧院の主人公ファブリスの生涯が好きであんな風に颯爽と生きたく思っています。四明会の今後のご発展を切に願っています。

林38

毎日が日曜日、日日これ好日、俗事から解放され、まさに悠悠自適の生活を満喫しております。

化41修

80才になりましたが、元気にすごしています。いつもお世話いただきありがとうございます。

農40

いたって元気で、テニス、ガーデニングなどを楽しんでいます。

工45

『卒業50周年事業』昨年から今年へ変更→やるのかしら？

農47

ごぶさを重ねております。当方、従前と変更はありません。会員の皆様方のご健勝を祈念いたしております。

経49

事務局の皆さん、ご苦労様です。私は、元々農史のゼミにいました。

今は、市民大学院で「地域文化史」を担当しています。一度、大学院同士で交流したいです！

生51

コロナ禍で大学業務も大変な苦勞をされていると思いますが、くれぐれも将来を担う学生の学びと成長を大切にしてください。

生52

本年4月末に転居致しました。旧高槻農場(現・安満遺跡公園)まで徒歩5分です。

産54

R2.9月より、(株)MCBIに転職しました。認知症前段階のMCIのリスクを測定するMCIスクリーニング検査(血液検査)のメーカーで、つくば大学発ベンチャーです。認知症予防事業も展開しています。認知症のことでしたら、何なりとお問合せ下さい。

食55

健康に暮らしています。

経56

2021年6月に2つの会社の役員を退任いたしました。いまはフリーな立場でのんびり過ごしております。

畜59

85年ぶりのメダルに胸があつくなりました。農学部グランド発のアスリートの益々の今後の活躍を祈っております。

化63

四明会たよりを毎夏楽しみにして拝読しております。今年はソフトボール大会などがなかったために代わりに高槻の農場跡地の紹介が掲載されたとのことですが、私にとっては大変良かったです。農芸化学科卒業ですが、昭和61年度頃に農場実習を履修させていただきました。時計台前から送迎バスに乗って通いました。なつかしい日々です。一方でソフトボールは苦手で苦痛以外の何物でもなかったのも、思い出したくないです。農場跡地は商業施設かマンションにでもなったのだろうと想像していましたが、農場の面影を残した公園になったと知りうれしく思いました。ご紹介ありがとうございました。

経平2

元気です。

「四明会たより」への寄稿のお願い

「四明会たより」は年1回の発行です。今後も紙面の充実を図りたいと考えています。各地域や各学年における同窓会の活動を会員の皆様にご紹介したいと考えていますので、ご寄稿をお待ちしています。

また、こんな記事を読みたい等のご希望がありましたら事務局までお知らせください。
(締切随時、400字程度、写真があれば添えてください) E-mail:shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

四明會会員数一覧

2022/6/1現在

学科・専攻	卒業・修了年	合計	物故	学外	学内	住所無効	海外
農学	昭和2～平成13	1,765	684	760	10	267	44
林学	昭和2～平成11	1,674	611	674	15	340	34
農芸化学	昭和2～平成13	2,966	985	1,415	29	465	72
農林生物学	昭和2～平成17	987	314	455	17	172	29
農業工学	昭和2～平成14	2,031	498	1,094	15	365	59
農林経済学	昭和2～平成13	2,617	1,082	864	12	618	41
水産学	昭和25～平成12	1,119	214	500	9	370	26
林産工学	昭和44～平成12	1,005	54	586	27	300	38
食品工学	昭和46～平成12	1,246	37	868	17	275	49
畜産学	昭和51～平成12	647	17	365	11	224	30
熱帯農学専攻	昭和58～平成10	90	4	28	5	16	37
生物生産科学科資源生物科学コース	平成11～平成19	484	1	213	12	247	11
生物生産科学科生産システム学コース	平成11～平成21	112	1	61	2	46	2
生物機能科学科応用生命科学コース	平成11～平成19	546	4	295	15	223	9
生物機能科学科生物材料科学コース	平成11～平成21	147	1	68	5	72	1
生産環境科学科生物環境科学コース	平成11～平成17	146		60	4	79	3
生産環境科学科地域環境創造学コース	平成11～平成17	184		87	5	89	3
生産環境科学科生物資源経済学コース	平成11～平成19	168	1	59	2	106	
資源生物科学科	平成17～	1,689	2	712	205	767	3
応用生命科学科	平成17～	902	2	466	104	313	17
地域環境工学	平成17～	652	5	394	66	185	2
食料・環境経済学	平成17～	563		282	30	248	3
森林科学科	平成17～	1,009	1	333	124	547	4
食品生物科学科	平成17～	636	1	321	58	252	4
農学専攻	平成11～	234		92	11	113	18
森林科学専攻	平成10～	463	1	146	24	232	60
応用生命科学専攻	平成11～	717	3	412	30	219	53
応用生物科学専攻	平成10～	425		155	25	217	28
地域環境科学専攻	平成9～	452		152	22	205	73
生物資源経済学専攻	平成9～	256		75	21	135	25
食品生物科学専攻	平成15～	244	3	99	12	99	31
合計		26,176	4,526	12,091	944	7,806	809

農学科から畜産学科：学部卒業、修士修了、博士修了、特別会員

熱帯農学専攻、農学専攻から食品生物科学専攻：修士修了、博士修了、特別会員

生物生産科学科資源生物科学コースから食品生物科学科：学部卒業

会費納入のお願い

2022年度(2022年4月～2023年3月)四明會年会費1,500円を同封の払込取扱票(A4サイズ、宛名票とで同じシート)で、コンビニまたは郵便局から振り込みくださるようお願いいたします。

60歳以上の方でご希望される場合は終身会費(2万円)の制度もございます。どうぞご利用ください。

会費納入方法については同封の「令和4年度四明會会員状況調査と会費納入について」をご覧ください。ご不明の場合は事務局までお問合せください。

「京都大学農学部四明會 VISAカード」について

「四明會VISAカード」はご存じでしょうか。三井住友カード(株)と提携して発行しているクレジットカードで、デザインに農学部正門を取り入れた親しみやすく、ステータスと独自性にあふれたものです。このカードはVISAカードとして、広く国内、海外の加盟店でご利用いただけ、ご利用の都度提携手数料が四明會に入ります。昨年は約20万円の手数料が入りました。四明會の会費、名簿代もこのカードで支払いできます。昨年からカードの加入がインターネットからできるようになりました。未加入の方はぜひご加入ください。

右のQRコードから入会ページにアクセスできます。
四明會のホームページにもリンクを設けています。



四明會令和3年度決算及び令和4年度予算

収 入 の 部

(円)

科 目	令和3年度決算		令和4年度予算額
	予 算 額	決 算 額	
会 費	6,000,000	7,189,000	6,300,000
名 簿 売 払 代	1,200,000	1,221,000	60,000
広 告 料	700,000	800,000	0
V I S A 募 集 手 数 料	1,000	4,400	4,000
V I S A 提 携 手 数 料	220,000	195,425	195,000
預 金 利 息	200	56	0
寄 付 金 及 び 雑 収 入	5,000	240,219	5,000
小 計	8,126,200	9,650,100	6,564,000
前 年 度 繰 越 金	8,425,815	8,425,815	8,367,212
合 計	16,552,015	18,075,915	14,931,212

支 出 の 部

(円)

科 目	令和3年度決算		令和4年度予算額
	予 算 額	決 算 額	
名 簿 印 刷 製 本 費	2,700,000	2,508,000	0
名 簿 発 送 費	338,000	233,400	55,500
会 報 等 印 刷 ・ 発 送 費	2,100,000	2,176,022	2,100,000
球 技 大 会 費	130,000	0	100,000
会 議 費	150,000	0	100,000
謝 金	20,000	180,631	80,000
通 信 費	50,000	68,134	50,000
消 耗 品 費	80,000	74,267	60,000
光 熱 水 料 ・ 借 料	200,000	213,052	210,000
振 込 等 手 数 料	620,000	570,827	553,500
備 品 費	500,000	297,924	0
人 件 費	3,050,000	3,220,329	3,250,000
雑 費	5,000	166,117	5,000
予 備 費	1,000,000	0	-
小 計	10,943,000	9,708,703	6,564,000
次 年 度 繰 越	5,609,015	8,367,212	8,367,212
合 計	16,552,015	18,075,915	14,931,212

四明會令和4年度役員名簿

会 長 澤山 茂樹
副 会 長 仲村 匡司
監 事 吉田 天士
〃 大野 翔

常任委員

農 学 専 攻 黒川 俊二
森 林 科 学 専 攻 仲村 匡司
応 用 生 命 科 学 専 攻 白井 理 (総務)
応 用 生 物 科 学 専 攻 舟場 正幸
地 域 環 境 科 学 専 攻 中村 公人
生 物 資 源 経 済 学 専 攻 足立 芳宏
食 品 生 物 科 学 専 攻 保川 清

委 員

農 学 科 大野 翔
農 林 学 科 正岡 直也
農 芸 化 学 科 宮川 恒
農 林 生 物 学 科 吉田健太郎
農 業 工 学 科 星野 敏
農 林 経 済 学 科 鏡島 正信
水 産 学 科 吉田 天士
林 産 工 学 科 築瀬 佳之
食 品 工 学 科 松宮健太郎
畜 産 学 科 舟場 正幸
熱 帯 農 学 専 攻 樋口 浩和

顧 問 濱中 裕之
〃 半田 智子

事 務 局 沖田 義孝
〃 児玉富美子

四明會会則

(平成30年4月18日 一部改正)

第1章 総 則

- 第1条 本会は、京都大学農学部四明會と称する。
- 第2条 本会は、会員相互の連絡を密にし、親睦をはかることを目的とする。
- 第3条 本会は、その目的を達成するため名簿の発行、その他必要な事業を行う。

第2章 会 員

- 第4条 京都大学農学部（以下「農学部」という。）の卒業生及び京都大学大学院農学研究科（以下「農学研究科」という。）修士課程修了者、または博士後期課程修了者（研究指導認定退学者を含む）を本会の正会員とする。
- 2 農学部・農学研究科の現教員及び旧教官、現職員、学生、並びに農学部・農学研究科に特別な関係を持つもので役員会が承認したものを特別会員とする。
ただし正会員であるものは除く。
- 3 特別会員はこの会則に関して正会員について特に定める事項を除き正会員と同等とする。

第3章 役 員

- 第5条 本会に次の役員をおく。
会長1名 副会長1名 監事2名
常任委員6名以上 委員10名以上
- 第6条 常任委員は農学研究科の各専攻から推薦された教員について役員会で決定する。
- 2 委員は各同窓会単位ごとに正会員または特別会員の内から推薦を受け、役員会において決定する。
- 3 会長が役員を必要とするときは、候補者を推薦し、役員会で決定する。
- 第7条 会長は農学部長をもってあてる。
- 2 副会長は常任委員の内から、監事は委員の内からそれぞれ役員会において互選する。
- 第8条 常任委員及び委員の任期は1年とし4月に交代するものとする。
ただし留任はさまたげない。
- 第9条 会長は本会を代表し会務を統括する。
副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはこれに代わる。
常任委員は会務を分掌し、監事は財務を監査する。
- 第10条 本会に顧問をおくことができる。
なお、会長は必要に応じて顧問を役員会に出席させることができる。

第4章 役 員 会

- 第11条 役員は役員会を組織し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。

- 第12条 次の事項は役員会の議決を要する。
(1) 事業計画
(2) 予算及び決算に関する事項
(3) 基本財産に関する事項
(4) 会費に関する事項
(5) 寄付金その他収入に関する事項
(6) 会則の変更
- 第13条 定期役員会は毎年4月に開くものとする。
ただし必要に応じ臨時役員会を開くことができる。
- 第14条 役員はその1/3以上の同意により臨時役員会を請求することができる。
- 第15条 役員会は役員の過半数の出席により成立し議事は出席役員の過半数により決定する。
ただし可否同数の場合は議長が決定する。
- 2 会則の変更は出席役員の2/3以上の賛成により決定する。
- 第16条 役員会は会長が招集し、議長になる。
- 2 役員会の事務は事務局長が処理する。
- 第17条 会長は必要に応じ常任委員会を開く。常任委員会は会長、副会長、常任委員及び事務局長により組織し本会の業務の執行に関し必要な事項を審議決定する。

第5章 会 計

- 第18条 本会の経費は会費及び寄附金その他の収入をあてる。
- 第19条 会費は会員から徴収し、金額はそれぞれ次のとおりとする。
(1) 年会費 正会員、特別会員とも1,500円
(2) 終身会費 60歳以上で希望する者20,000円
(3) 学生会費（入会金及び在学中の会費）
学部生10,000円 大学院生5,000円
- 第20条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 事 務 局

- 第21条 本会の事務局は農学部内におく。
- 第22条 事務局には事務局長1名、事務職員若干名をおく。
- 第23条 事務局長及び事務職員は会長の指揮を受け事務を処理する。
- 附 則 この会則は昭和46年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成11年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成18年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成20年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成30年4月18日より施行する。

農学研究科教員人事

令和3年7月1日						
石橋 美咲	採用	農学専攻	品質科学講座	品質設計開発学分野	助教	
令和3年8月1日						
長坂 京香	採用	附属農場		植物生産管理学分野	助教	
令和3年9月1日						
黒田 美都	採用	応用生命科学専攻	応用生化学講座	細胞生化学分野	助教	
松宮 健太郎	昇任	食品生物科学専攻	食品生産工学講座	農産製造学分野	准教授	
令和3年9月30日						
大野 健太郎	任期満了	農学専攻	園芸科学講座	果樹園芸学分野	特定助教	
令和3年10月1日						
岩橋 優	採用	農学専攻	耕地生態科学講座	栽培システム学分野	助教	
LI, Taishan	採用	農学専攻	園芸科学講座	果樹園芸学分野	特定助教	
近藤 琳太郎	採用	農学専攻	作物科学講座	作物学分野	特定助教	
令和3年11月30日						
渡邉 大輔	辞職	食品生物科学専攻	食品生産工学講座	生物機能変換学分野	准教授	
令和3年12月31日						
VILAYVONG, Khonesavanh	任期満了	地域環境科学専攻	地域環境開発工学講座	施設機能工学分野	特定助教	
令和4年1月1日						
KOCH, Michael Conrad	採用	地域環境科学専攻	地域環境開発工学講座	施設機能工学分野	特定助教	
令和4年2月1日						
RAHMAN, Md Habibur	採用	森林科学専攻	森林管理学講座	熱帯林環境学分野	特定助教	
令和4年2月16日						
老木 紗予子	採用	食品生物科学専攻	食品生産工学講座	生物機能変換学分野	助教	
令和4年3月1日						
FEUER, Hart Nadav	採用	生物資源経済学専攻	比較農史農学論講座	農学原論分野	准教授	
南 直治郎	併任	農学研究科附属牧場長				
令和4年3月31日						
神崎 護	定年退職	森林科学専攻	森林管理学講座	森林・人間関係学分野	教授	
中嶋 洋	定年退職	地域環境科学専攻	生物生産工学講座	農業システム工学分野	教授	
梅津 千恵子	定年退職	生物資源経済学専攻	国際農林経済学講座	地域環境経済学分野	教授	
松井 徹	定年退職	応用生物科学専攻	動物機能開発学講座	動物栄養科学分野	教授	
刑部 正博	定年退職	地域環境科学専攻	生産生態科学講座	生態情報開発学分野	准教授	
岡田 直紀	定年退職	森林科学専攻	森林生産学講座	森林利用学分野	准教授	
山崎 彬	辞職	附属農場		植物生産管理学分野	助教	
LI, Taishan	任期満了	農学専攻	園芸科学講座	果樹園芸学分野	特定助教	
RAHMAN, Md Habibur	任期満了	森林科学専攻	森林管理学講座	熱帯林環境学分野	特定助教	
金子 賢太郎	任期満了	食品生物科学専攻	食品健康科学講座	食品生理機能学分野	特定助教	
令和4年4月1日						
澤山 茂樹	併任	農学研究科長・農学部長				
田尾 龍太郎	併任	農学研究科副研究科長				
秋津 元輝	併任	農学研究科副研究科長				
北島 薫	併任	農学研究科副研究科長				
橋本 涉	併任	農学研究科副研究科長				
正岡 直也	採用	森林科学専攻	森林保全管理学講座	山地保全学分野	助教	
檀浦 正子	昇任	森林科学専攻	森林環境科学講座	森林利用学分野	准教授	
松岡 祐樹	採用	農学専攻	品質科学講座	品質設計開発学分野	特定助教	
菅瀬 謙治	昇任	応用生命科学専攻	応用生化学講座	生体高分子化学分野	教授	
舟場 正幸	昇任	応用生物科学専攻	動物機能開発学講座	動物栄養科学分野	教授	
井上 喜博	採用	応用生物科学専攻	資源植物科学講座	植物遺伝学分野	助教	
本多 慎之介	採用	応用生物科学専攻	動物遺伝増殖学講座	生殖生物学分野	助教	
仲村 匡司	配置換	森林科学専攻	生物材料工学講座	生物材料設計学分野	教授	

寺石 政義	配置換	農学専攻	作物科学講座	育種学分野	准教授
松下 秀介	配置換	国際高等教育院			教授
松下 秀介	併任	生物資源経済学専攻	農企業経営情報学講座	経営情報会計学分野	
井上 博茂	配置換・昇任		国際高等教育院		准教授
井上 博茂	併任	農学専攻	耕地生態科学講座	栽培システム学分野	
石橋 美咲	配置換	農学専攻	品質科学講座	品質評価学分野	助教
北島 薫	併任	教育研究評議会評議員			
丸山 伸之	併任	農学研究科附属農場長			
栗山 浩一	併任	農学資源経済学系長			
阪井 康能	併任	農芸化学系長			
近藤 直	併任	生物生産環境学系長			
横井 伯英	併任	応用生物学系長			
野口 良造	採用	地域環境科学専攻	生物生産工学講座	農学システム工学分野	教授
河内 護之	採用	糸状菌・環境インターフェイス工学講座（寄附）			特定准教授
松下 幸司	昇任	森林科学専攻	森林保全管理学講座	森林・人間関係学分野	教授
藤澤 和謙	昇任	地域環境科学専攻	地域環境開発工学講座	施設機能工学分野	教授
吉見 啓	採用	地域環境科学専攻	生産生態科学講座	微生物環境制御学分野	准教授
安達 広明	採用	応用生物科学専攻	資源植物科学講座	栽培植物起源学分野	特定助教
令和4年6月1日					
塚原 洋子	採用	応用生物科学専攻	動物機能開発学講座	畜産資源学分野	特定講師

—農学部構内点景—



農学部 正門



農学部 総合館西側



教室より望む大文字



生協北部 食堂



農学部 図書室



教室

農学部・農学研究科学生概要

1. 学生等数（令和4年5月1日現在）

(1) 学部

学 部 学 生				合 計
1年次	2年次	3年次	4年次	
311	309	308	374	1,302

(2) 大学院

修 士 課 程			博 士 後 期 課 程				合 計
1年次	2年次	計	1年次	2年次	3年次	計	
330	341	671	88	66	100	254	925

(3) 科目等履修生等

科目等履修生	特別聴講学生	科目等履修生(院)	特別聴講学生(院)	特別研究学生(院)	研究生(院)	研修員
7	3	1	0	12	14	4

2. 入学状況（令和4年度）

(1) 学 部

区分	入学定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男	女	計	男	女	計
一般入試	—	479	260	739	186	112	298
特色入試	—	39	36	75	4	6	10
計	300	518	296	814	190	118	308

(2) 大学院

区分	入学定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男	女	計	男	女	計
修 士 課 程	303	224	167	391	181	137	318
博士後期課程	90	43	27	70	42	26	68

3. 入学試験合格者最高点・最低点（総点）（令和4年度・一般入試）

満点	最高点	最低点	平均点
1,050	833.33	644.53	694.36

4. 学部卒業者・大学院修了者・博士学位授与者数

(1) 学部卒業者数

区分	令和3年度	累計
旧制（昭和23～昭和29.3）	—	3,392
新制（昭和28.3以降）	309	21,494
合計	—	24,886

(2) 大学院修了者数

修 士 課 程	
令和3年度	累計
304	11,570

(3) 博士学位授与者数

区分		令和3年度	累計
旧制		—	641
新制	博士課程修了者	51	2,513
	論文提出者	3	2,900
合計		54	6,054

5. 学部卒業者・大学院修了者等の産業別就職状況

(1) 学部（令和4年3月卒業者）・大学院（令和3年度修了者・研究指導認定退学者）

産 業		学 部		修士課程		博士後期課程	
		男	女	男	女	男	女
製造業	農・林・漁業	2					
	鉱業・建設業	1		4	1		
	食料品・飲料・たばこ	8		20	10	1	
	繊維工業			3			
	印刷等						
	化学工業・石油			23	15	4	
	鉄鋼業・金属						
	機械・電気	2	1	10	6	2	1
	その他			3	4		
サービス業	電力・ガス			2	4		
	情報通信業・運輸業	7	7	18	11	1	
	卸売・小売業	5	4	7	5		
	金融・保険業	4	2	8	3		
	学術研究、専門・技術	5	2	27	16	2	2
	宿泊・飲食業		1	1	1		
	その他	5		5	3		
教育	学校教育	1				20	8
	学習支援業						
公務	国家公務		1	3	2		
	地方公務	1	3	4	2		
上記以外		1	1		2	1	1
男子計		42	22	138	85	31	12
女子計							
総合計		64		223		43	

6. 国別外国人留学生数

令和4年5月1日現在

国 名	学部学生	修士課程	博士後期課程	研究生等	合計
アゼルバイジャン		1			1
アフガニスタン			1		1
イラン			1		1
インド			2		2
インドネシア	1	18	9	1	29
ウガンダ		1			1
エジプト			2		2
オーストラリア		1			1
オランダ				1	1
カメルーン			1		1
カンボジア		2	2		4
ケニア		1	3		4
シンガポール				1	1
タイ	1	3	4	1	9
ナイジェリア			1		1
バングラディシュ		2	1		3
フィリピン		1		1	2
ブータン				1	1
ブラジル		2			2
ベトナム			3		3
ペルー				1	1
マレーシア		3	3		6
ミャンマー		5	5		10
モロッコ		1			1
韓国	2	4	4		10
台湾	2	5	7	2	16
中国	4	43	60	9	116
米国		2	4		6
香港	2				2
総 計	12	95	113	18	238

京都大学農学部教育研究基金
京都大学農学研究科附属農場基金
京都大学農学部 100 周年記念事業基金
醸金・事業状況の報告

会員の皆様には昨年度も各基金に多くの醸金を頂き、誠にありがとうございました。

農学部教育研究基金は107件の寄付を頂いています。収支は下記のとおりです。これまでもお伝えした通り、大学院生の渡航援助を強化しており、在学中に少なくとも一度は海外での研究発表を経験してもらおうと旅費を支援することになっています。しかし昨年度は一昨年度に続きコロナウイルス感染防止のため国際研究集会等がオンライン開催となり、1名の学生に登録費等の助成をするに留まりました。「芦生（向山）維持管理費」は平成24年度に未来農業国際研究財団から寄付頂いた山林の維持のために使用しています。本研究科国際交流室が実施する留学生や外国人研究者のための様々な行事の実施補助に使用していた「国際交流室行事用経費」は、これもコロナウイルス感染防止のため事業が実施できず、昨年度もその前年度に続き支出なしとなりました。その他として平成30年度から35歳以下の若手特定教員4名を採用し、その給与にも使用しています。昨年も給与の支出はありましたが、農学研究科共通経費で支出しましたので基金からの支出は0円となりました。

附属農場基金につきましても56件と特定基金分（京都大学本部を通して募集している基金）9件の寄付を頂きました。心から御礼を申し上げます。平成28年度に移転は終了しましたが、今後、果樹が育ち自己収入が十分に得られるようになるまでには、暫く時間を要するようですし、施設・設備の充実もこれから時間をかけて進めていく必要があります。今後とも、皆様のご支援をお願い致します。

農学部100周年記念事業基金は、令和5（2023）年11月28日に記念すべき100周年を迎えるにあたり、農学部の卒業生や縁の深い方々と共に100年の歴史と今後の展望について語り合う機会として、また、日本の農学の将来を担う若手研究者たちの国際的飛躍の契機とすることを願い、様々な記念事業を実施することを目的として令和2年3月16日に設立されました。昨年度は146件の寄付を頂きました。また100周年記念誌編纂に関する用務で農学研究科に来ていただいた方々への旅費を支出しています。

本学ならびに本研究科・本学部がおかれている財政状況は厳しさを増すばかりです。そのような状況下で、皆様からご支援いただけるのは誠に心強く、大変ありがたく存じております。引き続き、強力なお力添えを賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

令和4年8月
京都大学農学研究科長・農学部長 澤山 茂樹

農学部教育研究基金

収支（平成17～令和3年度）

年 度	寄 附 金		研究集会等派遣助成等 金額（円）	翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）			
平成17	370	10,339,000	—	10,339,000	平成17年12月1日、内規・運用規則裁定
平成18	207	4,833,360	400,000	14,772,360	
平成19	146	8,850,380	1,199,000	22,423,740	
平成20	115	4,493,300	920,000	25,997,040	
平成21	162	3,672,060	1,128,446	28,540,654	
平成22	96	2,445,100	907,000	30,078,754	
平成23	128	7,675,400	1,475,200	36,278,954	
平成24	104	62,991,807	1,200,000	98,070,761	
平成25	87	3,131,180	800,000	100,401,941	
平成26	58	2,007,114	1,250,000	101,159,055	
平成27	67	1,049,580	2,111,951	100,096,684	
平成28	67	3,559,360	3,657,650	99,998,394	
平成29	59	1,043,700	2,267,951	98,774,143	
平成30	81	2,200,100	3,224,966	97,749,277	
令和元	94	4,402,160	25,641,616	76,509,821	
令和2	87	2,170,700	1,528,890	77,151,631	
令和3	107	4,310,040	146,236	81,315,435	
（累計）	2,035	129,174,341	47,858,906	81,315,435	

令和3年度執行内訳

		金額（円）	備 考
支出	国際研究集会等参加助成金	46,268	詳細は次ページ参照
	芦生研究林（向山）維持管理費	99,968	
	その他	0	
	計	146,236	

国際研究集会等参加助成金内訳

氏 名	学 年	研究集会名	金額(円)	派遣先
リ・タイシャン	博士3回生	12th International Vaccinium Symposium	46,268	カナダ (Web)
		計	46,268	

令和3年度入金者一覧

(五十音順)

青山 咸康	岡本 隆雄	阪本 哲也	西田 律夫	眞鍋 三雄
赤松 美紀	小澤 雅子	佐々木 義之	西谷 崇	宮川 恒
秋津 元輝	掛川 博文	佐藤 淳	西村 一三	村井 耕二
浅田 雅宣	勝俣 昌也	佐藤 雅彦	西本 泰三	村上 和雄
浅沼 善次郎	加藤 俊夫	篠原 俊清	橋本 渉	村上 修一
安倍 泰生	加納 健司	十一 浩典	林 幸博	村下 泰
天野 洋	鎌田 隆義	昭野 聡一	治多 伸介	森田 裕
荒井 修亮	神谷 正剛	白井 清司	日比野 進弘	森本 茂俊
井口 隆史	茅原 正毅	田尾 龍太郎	平井 和	柳井 稔
池田 昇司	喜多 毅	高木 圭子	廣瀬 忠爾	矢野 俊彦
池田 茉史	木谷 恵	高橋 強	廣田 雅司	矢野 秀雄
石倉 洋一	福原 昭夫	栃原 邦匡	福永 拓也	山口 武彦
石永 正隆	久馬 剛	中川 望	藤井 義久	山口 務
位田 博俊	久保 元伸	中川 雅永	伏見 清昭	山田 紘士
一恩 英二	桑島 士郎	長野 宏	古田 保	大和 勝幸
伊藤 七郎	小泉 京子	永野 由祐	文野 正恭	吉村 実
伊藤 操子	河野 慎吉	中濱 一雄	堀江 大輔	和田 文男
井上 樹芳	小杉 直輝	仲矢 順子	前川 英一	渡辺 大輔
井村 周一	小谷 明司	鳴澤 成泰	増本 隆夫	
上杉 明日香	小寺 俊一郎	西澤 健治	町田 勝彦	
上原 章敬	齋藤 健	西澤 勉	松村 一郎	
岡松 直勝	坂口 守彦	西島 嘉隆	松本 晋也	

以上107名

農学研究科附属農場基金

収支（平成25～令和3年度）

年 度	寄 附 金		教育研究活動助成等	翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	金額（円）		
平成25	97	3,773,000	0	3,773,000	
平成26	66	1,520,960	0	5,293,960	
平成27	62	1,176,000	2,069,280	4,400,680	
平成28	40	813,400	0	5,214,080	
平成29	33	592,900	0	5,806,980	
平成30	37	852,600	1,882,275	4,777,305	
令和元	34	2,450,000	2,420	7,224,885	
令和2	47	1,029,000	0	8,253,885	
令和3	56	833,980	0	9,087,865	
（累計）	472	13,041,840	3,953,975	9,087,865	

令和3年度執行内訳

事 項	金額（円）	備 考
支出	—	0
	計	0

(特定基金分)

収支（令和2～令和3年度）

年 度	寄 附 金		教育研究活動助成等	翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	金額（円）		
令和2	1	9,500	0	9,500	
令和3	9	380,950	0	390,450	
（累計）	10	390,450	0	390,450	

令和3年度執行内訳

事 項	金額（円）	備 考
支出	—	0
	計	0

令和3年度入金者一覧

(五十音順)

赤松 美紀	奥田 禎爾	佐藤 雅彦	橋本 涉	松本 晋也
天野 洋	小澤 雅子	篠原 俊清	多比野 伸介	宮川 恒
池田 菜史	鎌田 隆義	十一 浩典	平井 和進弘	村上 興正
池橋 宏	神谷 正剛	高木 宏助	平林 征男	本塚 太一
石倉 洋一	喜多 毅	坪井 仁	廣瀬 忠爾	森塚 直樹
板野 徹	木谷 恵	中川 雅永	福永 拓也	柳 進
一恩 英二	桑島 土郎	永野 由祐	藤井 義久	矢野 俊彦
伊藤 七郎	小杉 直輝	鳴澤 成泰	伏見 清昭	矢野 秀雄
上杉 明日香	小谷 明司	西澤 勉	堀江 大輔	
上野 広顕	小寺 俊一郎	西谷 崇一	町田 勝彦	
大岸 治行	相良 直彦	西村 三泰	松村 一郎	
大関 明日香	佐藤 淳	西本 泰三		

以上 56 名

(特定基金分)

(五十音順)

木村 智恵	高木 圭子	D r e a m財団	橋本 慎太郎	濱 朋之
田尾 龍太郎	高畠 めぐみ	西田 昌弘	橋本 慎太郎	

以上 9 名

農学部100周年記念事業基金

収支 (令和元～3年度)

年 度	寄 附 金		教育研究活動助成等	翌年度繰越額	備 考
	件数	金額 (円)	金額 (円)		
令和元	0	0	0	0	令和2年3月16日付設置
令和2	225	6,661,400	0	6,661,400	
令和3	146	11,205,250	62,380	17,804,270	
(累計)	371	17,866,650	62,380	17,804,270	

令和3年度執行内訳

事 項		金額 (円)	備 考
支出	旅費	62,380	
	計	62,380	

令和3年度入金者一覧

(五十音順)

相川 哲	岡本 恭二	坂口 守彦	中山 安	真部 孝明
青松 大豪	岡本 浩之	佐々木 利幸	夏原 由博	真野 恵子
青柳 正英	岡本 正男	佐々木 義之	西田 陸	丸川 由人
秋津 元輝	沖 陽子	佐藤 明彦	西馬場 茂	丸山 利輔
秋元 弘	越智 英人	澤 嘉弘	西村 貴志	水沼 裕治
明田 卓	小野 和子	芝 正巳	根本 翔	水野 孝司
浅野 秀彦	粕谷 雄久	十一 浩典	野崎 至亮	水谷 昌
浅野 泰久	勝俣 昌也	鈴木 明日香	土師 一郎	三苦 英太郎
東 宗一	加藤 忠司	鈴木 孝司	橋本 幾太	村上 武彦
東 卓夫	壁谷 直記	瀬川 浩子	濱井 康丞	元木 志織
天田 高白	亀岡 裕子	田尾 龍太郎	林 千珠子	矢口 護
池田 昇司	川合 正允	多賀 玲子	林 哲良	矢崎 英敏
石岡 厳	川田 正造	高岡 隆一	早瀬 隆昌	安田 真理子
石川 晴久	川西 裕康	高畠 めぐみ	原田 昌衛	柳本 紀男
石川 吉康	河野 市三郎	宝酒造株式会社	樋口 敦子	矢野 理子
一恩 英二	川村 直道	タカラバイオ株式会社	人見 清隆	屋比久 盛敏
市山 祐	神田 智正	田口 寛	平山 周作	山岡 万寿夫
出光 清昭	岸岡 智也	田尻 守	深澤 正徳	山口 務
伊藤 あすか	北野 善久	田中 準一	福島 茂	山本 喜一
伊藤 勝久	北山 健司	谷口 順彦	福島 雄裕	山本 清和
稲岡 正信	木村 芳雅	曹 昌淳	福森 功	山本 雅司
居波 昌樹	倉貫 静夫	長 由紀枝	藤田 清臣	山本 優一
植野 栄治	小梶 聡	柘植 眞賢	藤野 舜一	吉成 敏夫
梅原 久弘	小西 淳一	出来 俊彦	伏見 清昭	吉村 実
遠藤 八十一	駒井 亨	寺田 喜信	藤本 高全	依田 方伯
大内 成志	小松 一雄	中野 尚志	古川 和吉	若松 広明
大内 毅	小湊 壤	中野 良治	堀江 大輔	
岡田 邦子	近藤 健吾	中村 明夫	松嶋 隆	
緒方 祥之	齋藤 晴美	中村 健治	松田 慶二郎	
岡部 一夫	坂口 守彦	中森 茂	松本 和男	

以上 146 名

第17回 京都大学ホームカミングデイ2022

■ リアルとオンラインのハイブリッド開催

【開催日程】

リアル開催日：2022年11月5日（土）10時～12時

オンライン公開期間：2022年11月5日（土）10時配信開始～2022年11月30日（水）17時配信終了

【リアル開催のイベント】

- ◆ 音楽祭 会場：京都大学百周年時計台記念館1階 百周年記念ホール
 - ・ 開会挨拶 湊 長博 京都大学総長（京都大学同窓会会長）
 - ・ 卒業生のプロミュージシャンによるジャズコンサート（出演：Kazuki Yamanaka Special Quartet）

- ◆ 施設見学（清風荘公開、総合博物館、附属図書館、尊攘堂）

- ◆ スタンプラリー（景品あり）

※ リアル開催のイベントはWebによる事前予約が必要なイベントもございますので、申し込み方法等の詳細は京都大学HP、京都大学同窓会HP・Facebookに掲載いたします。

【オンラインイベント】（オンデマンド配信）

- ◆ 湊長博総長挨拶
- ◆ Kazuki Yamanaka Special Quartet によるジャズコンサート
- ◆ 学生サークルの出演動画（京都大学民族舞踊研究会、京大合唱団、アカペラCrazy Clef、京都大学グリークラブ、体育会所属55団体の紹介ビデオ等）
- ◆ 京都大学総合博物館探訪
- ◆ メッセージツリー「クスノキの下で」
- ◆ 第15回（2020年度）、第16回（2021年度）ホームカミングデイのビデオコンテンツのアーカイブ

※上記のイベント内容は現時点の予定であり、予告なく変更になる場合がございます。

【お問い合わせ】

京都大学同窓会事務局 電話075-753-2029, 5563

E-mail: alumni@www.adm.kyoto-u.ac.jp <http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/>

◎事務局より

令和3年度も新型コロナウイルス感染防止のため、入学生保護者懇談会、卒業50周年記念同期生会がオンライン開催となり、ソフトボール大会は開催できませんでした。また、同窓会・クラス会も自粛されたところが多かったようでしたが、今年になって少しずつですが開催されるようになり、報告もいただきました。このため今回はページ数を従来の20ページに戻すことができました。

今年は祇園祭の山鉦巡行、五山の送り火、時代まつりの行列が3年ぶりに実施予定と発表されました。ソフトボール大会、卒業50周年記念同期生会等の当会の行事が開催され、来年の四明会たよりで皆様にご報告ができることを願っております。

会員の皆様方のご健康とご活躍をお祈りいたします。

5年の任期を終え今年3月で事務局長を退任いたしましたが、事情により5月から事務局長代行として復帰しました。しばらくの間と思いますが、よろしくお願いいたします。

（沖田）

四明会たより（2022年8月発行）

京都大学農学部四明会

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

Tel/Fax 075-753-6030

メールアドレス shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

ホームページ <http://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>